

荷主さまの苦労話 ～米国西岸ストライキ～ 事例：大同工業株式会社様

2014年10月頃から2015年5月頃にかけて、アメリカ西海岸の各港は6年に一度ある労使交渉にて歴史上最悪の混雑となった事はご周知の通りかと思えます。日本発着の貨物も大きな影響を受けたのは言うまでもありません。

その中でこの労使交渉期間(西岸ストライキ)を乗り越えられたのか……!

一部のお客様のエピソードをご紹介します。

一つ目は、コンテナ船の大幅遅延です。2014年11月20日頃に日本を出港し2014年12月末には現地工場到着予定のはずの貨物が実際ふたを開けてみると到着したのは2015年1月末：約1ヵ月半の遅延となりました。現地工場では生産ラインが毎日稼働している中、現地の在庫も底がつきAIR便で船積予定の一部を出荷し、最終的にAIR便は計10回(その内5回は客先の生産計画UPによる)出荷する事になり通常の船積みの数倍のコストが発生しました。しかし、生産ラインを止める訳にはいかない為、AIRでの対応をせざるをえず厳しい状況でした。



二つ目は、悪天候(大寒波)におけるイレギュラーな遅延です。2015年2月アメリカNY近郊では大寒波が襲い大同工業様の貨物が一時貨物貨物列車上で動かない状態となりましたが、結果的には予想より大きな遅延はなく、悪天候も向かい風となりダブルパンチ状態となりました。

三つ目は、海上運賃を増額してでも船の到着・現地納期が見えるコンテナスペースの確保が出来なかった事です。

理由としては現地着日程が見えない分、出荷数量が最終まで決まらなかった事。現地工場との連絡においてタイムリーな在庫は分かるが、船の遅延を含めた到着時期の在庫が読めなかった事が特に苦労されたとの事です。最後はやはりアメリカ本土のドライバー、シャーシ不足です。とにかく、やっとの思いで船のスペースは確保したのはいいが、現地での陸送ができない。各お客様が混乱されたこの状況の中で、当社の役割は大きく4つあります。



一つ目は『出荷した貨物についてのスピーディなトレース情報の開示』、二つ目は『現地の沖待ち情報を含め、各港のリアルな情報の通知(お客様へメールで一斉送信)』、三つ目は『弊社現地法人担当者との定期的なテレビ会議を行い、よりリアルな情報をお客様へご提供』、四つ目は『NVOCCとしてお客様のご希望に沿うサービスのご提供』大同工業様においては沖待ちが頻発している西海岸寄港サービスを取りやめ東海岸ダイレクトサービスのご提供(運賃が高い中国出しにスペースが優先され、日本出しのスペースが縮小し、希少サービスで対応しました。)

とにかく、お客様も各船社も当社においても苦労が絶えず神経をとがらせたこの期間があったからこそ、お客様との絆が強くなった事は間違いないと思えます。これからもお客様から頼りにされ、愛されるジャパントラストとして、社員一同一致団結していきたいと思えます。



弊社担当営業：久瀬 秀和



貿易用語



PSS(Peak Season Surcharge) = ピーク・シーズン割増料金

アジア出しクリスマスシーズンに向けての貨物急増に対する措置として導入された割増料金のこと。

繁忙期、特に北米地域で付加されるが、仕向国によっては、この料金の摘要期間が延長される場合もある。

情熱羅針盤
ジャパントラストかわら版

